

令和5年度 都立紅葉川高等学校 経営報告

1 今年度の取組目標と方策（☆は重点目標）

（1）学習指導

①目標

思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 授業の改善を図る。 ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりを図り、思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。 ・考えさせる発問、考えさせる課題 ・文章や図、表の読み取り、分析、まとめと発表 イ) 英語については、4技能の育成を図る。 ウ) 校内の教員相互の授業見学3回以上とフィードバック 他校の優れた授業見学1回以上。 エ) Teams等で配信型授業の構築。	ア 授業改善の取り組み ア) 全教科で思考力の育成を図ってきたが、授業時間確保で発表時間が取れない場面もあった イ) 4技能育成のための英語での活動の充実。JETによるインタビューの実施。英検向けの講習実施。 ウ) 校内での相互授業見学は、個人差があった。見学してもフィードバックがない場合があった。 エ) コロナ5類移行により、配信型のみならず学習支援ソフト等の活用にも効果が認められた。
イ 学力の向上を図る。 ア) 模擬試験やスタディサポート結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を組織的に行う。 イ) 家庭学習等を前提とした授業作りと習慣づけ。 ウ) 土曜講習の有効活用と各種相談の充実。 エ) スマスク端末と学習コンテンツの効果的な活用	イ 学力向上への取り組み ア) 学年毎の分析結果に基づいた個別指導を実施した。 イ) 1、2年生で学習支援ソフトを活用し、家庭学習習慣の確立に取り組んだ。 ウ) 年間を通して15回実施した。 エ) すき間時間を有効的な活用を目指した。

③課題と改善策

- ア 生徒間では、目標設定と学習意欲に差がある。目標をはっきりさせて意欲的に取り組む生徒は学力の向上が著しいが、目標が定まらない、習熟度が低い、自分に合った学習法が分からない生徒等は、学習意欲の獲得にたどり着けていない。組織的で継続的な個に応じた指導を丁寧に行う必要がある。
- イ 家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多数見受けられる。2学年の2学期までには、生徒自身に卒業後の目標をもたせ、学習への意欲を喚起する必要がある。土曜講習、英検講習及び学習コンテンツの導入は成果が表れていると考える。
- ウ 英語の授業で全ての教員が4技能の育成に取り組む工夫を図っているが、今後一層の効果的な指導に組織的に取り組む必要がある。また、今後はTGG、JETの活用及び「海外学校間交流」等の施策を通して、生活に根付いた英語への親しみと活用をすすめて、グローバル人材の育成を目指す。
- エ 授業中のICT機器の活用はかなり進んだ。一方で、スマスク端末の活用は、まだ途上である。今後は、オンラインでの授業配信のノウハウを保ちつつ、スマスク端末活用の工夫が必要である。

（2）進路指導

①☆目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図らせる。

生徒の意識を「行ける大学に進学する」から脱却させ「行きたい大学に進学する」に高める。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 計画的な進路指導の充実 ア) 模試結果やスタディサポート結果等を教員が分析し、そのデータを生かした指導を徹底する。(模試の分析会、生徒集会、面接、出願検討会、ケース会議を行い活用する。)	ア 計画的な進路指導の充実 ・ データを用いて大学出願検討会を実施し、三者面談週間に活かした。 ・ 4年制大学進学率 60.1% (R4 68.5%, R3 63.1, R2 58.0, H31 50.6%) ・ スタディサポート毎に報告会を実施。結果を担当教員が分析し、対策を立て報告会で共有した。 ・ 一般受験にチャレンジする生徒が増加した。 一般 55% (R4 48%, R3 38%, R2 39%, H31 16%) 推・総 45%(R4 52%, R3 61%, R2 61%, H31 84%) ・ 中堅以上の大学受験者増。合格者も下記の通り増。 日東駒専以上 70 名(R4 58, R3 20, R2 33, H31 7) ・ 3 学年希望者の朝学習、放課後勉強会への対応。
イ 学習機会の充実 ア) 自習室の活用や朝学習、放課後勉強会等、学校での学習環境及機会を整える。 イ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組む雰囲気醸成する。 ウ) 長期休業中や放課後の講習では生徒の学力に応じた学習をさせる。 エ) S I P 拠点校として理数教育のすそ野を広げる。	イ 学習機会の充実 ア) 学級増のため自習室が確保できず、教室を活用。真に学びたい生徒を土曜講習受講者とした。 イ) 部活動単位の学習会を複数回実施した。 ウ) 学習コンテンツを有効に活用し、自宅学習ができる課題の提供や講義のオンライン配信を行った。 エ) 3 回の校外学習を行うとともに、発表会、講演会を通して、理数教科への興味関心を広げた。校内への還元が課題であった。
ウ 推薦入試や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。 ア) 進路指導部を中心に面接や小論文指導を全教員体制で行う。	ウ 推薦入試や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。 ア) 管理職を含め、進路指導部を中心とした組織的な面接指導及び小論文指導を徹底的に行った。
エ 新大学入試への対応 ア) 「総合的な探究の時間」の内容や指導方法の検討を行い、充実した探究活動を行う。	エ 新大学入試への対応 ア) 「総合的な探究の時間」の内容や指導方法の検討を複数回入念に行い、SDGs をテーマとし充実した探究活動が行える体制を整備して継続した。
オ キャリア教育の充実 ア) 高校生活の目的意識を深めさせるため、将来働くことの意味や生き方を考えさせる。 イ) 自己理解を深め、早期に自己の在り方・生き方への目標をもたせる。	オ キャリア教育の充実 ア) 各種進路行事や講演会を実施し、発達段階に応じた将来の意義を考えさせた。 イ) HR 活動を活用し在り方・生き方教育に取り組み、個々の目標を定めさせた。

③課題と改善策

- ア 今年度は、模試の内容を生徒の学力に適合させ、かつ、全員が年間 3 回受験に減らすことで、一回毎の事前学習や事後の分析を十分に行える体制にして、質を高めた。大学進学希望者向けの模試は継続して設定している。この模試結果を進路指導に生かすべく、進路指導部がリードしてデータによる進路指導の体制を構築している。
- イ 大学入試制度が変わり、測られる学力が変わった。その変化に対応できる思考力、判断力、表現力や主体性の育成と学力水準の向上が十分とは言えない。そのため家庭での学習習慣をより身に付けさせることが重要となる。また、読解力の向上も課題となる。漢検に代えて文章検定を導入し、1, 2 学年で 186 名の 3 級合格につなげて読解力の向上を図った。
- ウ 大学入試制度の切り替わりの中で、受験生の不安は依然高く、不安を抱く生徒程、推薦や総合型選抜で早期に決めようとする傾向が見られた。その一方、一般選抜にチャレンジする生徒も大幅に増加し実力相応校に手堅く合格すると共に、大学入学共通テストの受験者数は昨年度比で 38 名減の、102 名であった。しかし、一般受験の割合は増加しており、今後も、大学受験は推薦や総合型選抜に

依存せず、一般選抜でチャレンジし、学びたい大学に入学できる生徒の育成が課題となる。

エ S I P 拠点校として、理数教育のすそ野を広げる活動を行った。今後は、理数教育の継続的な学びのために、校内への積極的な還元が求められる。

(3) 生活指導

①目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 規律指導の徹底 ア) SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。 イ) 年間3回のいじめアンケートを実施し、記述内容から問題を早期に発見し、速やかに解決を図る。 イ 美化活動 ア) 日常的な美化活動に努め、校舎内の環境整備を進める。	ア 規律指導の徹底 ア) 生徒会が主体となって作成したSNS紅葉川ルールを生徒に周知し、生徒が自主的に適切な使用方法を身につけさせた。 イ) 年間3回のいじめアンケートで、いじめが疑われる時には担任が面接し確認する等、速やかに対応。 イ 美化活動 ア) 生活指導部を中心に、生徒会の美化委員会を中心に校内の美化をすすめた。

③課題と改善策

ア SNS等による問題行動が数件起きた。いつでも起こりうることを認識し、情報モラルの指導をあらゆる機会を通して行う必要がある。

イ いじめについても顕在化することはなかったが、いつでも起こりうることを認識し、生徒の様子を注意深く観察していく。保健部会における、見守り等の必要な生徒情報の共有化を通し、生徒の変化の生活指導担当同士での共有化と対応の組織化が進んだ。

ウ 学校全体として、生徒の身だしなみは落ち着いているが、一部に頭髪と女子のスカート丈と化粧が課題となる生徒がいる。学校全体として共通認識に基づいた対応が必要となる。

エ 校舎等の老朽化がすすみ、汚れ等も目立つようになっている。大規模改修への道筋が立たない中で、小規模で短中期的な美化活動計画を策定し、教職員、生徒が協同して進めていく。

(4) 特別活動・部活動

①目標

学校への帰属意識や人間関係形成能力、自己肯定感、主体性を高める。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 学校行事 ア) 体育祭、文化祭等及び合唱祭では、実行委員会を中心に、生徒が主体となって活動する機会を多くする。	ア 学校行事 ア) 3 大学校行事である体育祭、文化祭、合唱コンクール及び球技大会を、コロナ禍前と同じ方式で実施できた。
イ 部活動 ア) 部活動加入率を高める。 イ) 外部指導員の活用等により、専門性の高い指導を行い、技能の向上を実感させる。 ウ) 練習内容や練習計画を見直し、効率的で効果的な活動を行う。	イ 部活動 ア) 加入率 87.8% (R4 86.8%, R3 87.7%, R2 88.4%, H31 87%) イ) 外部指導員と部活動指導員あわせて 10 名で各部の技術指導を充実。生徒の技術向上がみられた。 ウ) 練習内容等の見直と効率的な活動で学習との両立を目指した。
ウ 地域との交流活動の活発化 ア) 地域行事や施設等への参加や手伝いを行うとともに、特別支援学校や小学校・中学校との交流活動を行う。	ウ 地域との交流活動の活発化 ア) 地域の町内会のお祭りの手伝いや近隣の小学校で水泳指導は一切できなかったが、本校でのふれあいフェスティバルは実施した。
エ 学校 2020 レガシーの推進	エ オリ・パラの資質を育成して、共生・共助社会

オリ・パラ 5つの資質の育成の継続と、共生・共助社会の形成を担う生徒の育成 ア) アスリートとの交流活動を年間 1 回以上実施 イ) 特別支援教育学校との交流活動を年間 1 回以上実施。 ウ) 海外の方との交流活動を年間 1 回以上実施。	を作る生徒を育てる ア) スポーツドクターと理学療法士を招いた講演会を実施。「笑顔と学びのプロジェクト」は盛況であった。 イ) 特別支援学校との交流はできなかった。 ウ) 近隣大学の留学生との交流を行った。
---	---

③課題と改善策

- ア 感染症防止への配慮は継続しつつ、体育祭・文化祭・合唱コンクール及び修学旅行を実施できた。しばらく実施していなかったため、ノウハウを掘り起こしながらであったが、成功に導いた。
- イ 部活動では高い加入率を保ち、必要に応じて感染防止対策を講じての活動となった。
- ウ 9名の部活指導員は、会計年度任用職員として勤務し、部活動の技術力の向上に加え、教員の業務軽減にもつながっている。今後は顧問の一員として引率業務を行うなど、一層部活指導に力を発揮してもらうことが期待される。
- エ 地域や特別支援学校、小・中学校との交流再開の機会を多くもつようにする。

(5) 学校経営

①目標

社会の変化や要望に対応した教育活動を、組織的に行える学校。「丁寧な指導」をモットーに全ての生徒の伸びしろで勝負する学校。また、ライフ・ワークバランスを確保できる環境のある学校。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 人材育成 ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。前例踏襲型ではなく、課題解決型で仕事を行う。 イ) 主幹教諭、主任教諭から若手教員等への指導を徹底する。	ア 人材育成 ア) 主任教諭を主だったポストに配置し、課題を整理し、企画調整会議で解決策を提案するなど効果が見られた。主幹会議の活性化を図り、分掌横断的な課題の検討を行った。 イ) 9名の若手教員育成研修対象者に対し、研究授業などを通じて丁寧な指導を行った。
イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 会議時間を短縮する。(会議時間は 50 分を上限とする。) イ) 起案文書の電子化の徹底を図る。	イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 企画調整会議を効率的なものとし、職員会議は 50 分以内とした。 イ) 電子起案の徹底を図り、98.5%となった。
ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす ア) 部活動で外部顧問を活用し、引率や指導を必要最少の人数で行い、ライフ・ワークバランスを確保する。	ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす ア) 10 名の部活動指導員及び外部指導員を活用し、教員の負担軽減を図った。 イ) 勤務時間以外の在校時間が 80 時間以上の教員に対し、必要に応じた面接を行った。 ウ) 週 1 日 5 時半退庁を奨励し 1 月 57%となった。
エ 服務事故防止に努め、信頼される学校を作る。 ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学支援金等の個人情報の取り扱いにはルールを遵守する。 イ) 部費の管理をルールに基づき、適切に行う。 ウ) 服務事故防止研修を年間 2 回以上開催するなど、体罰・暴言他、信用失墜行為を未然に防止し、服務事故ゼロとする。	エ 服務事故ゼロを目指して周知と研修を行った。 ア) 考査等の時期の朝打ちで、ルールに基づいた取扱い、複数でのチェック等の徹底を周知し予防した。 イ) 部費は、適正な管理とチェック体制が構築された。 ウ) 人権意識の醸成を図るべく、打合せ等での周知を繰り返し行った。
オ 適正な予算執行と施設管理の徹底 ア) 会計処理は、正確かつ迅速に行う。 イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に行う。 ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応。	オ 適正な予算執行と施設管理の徹底 ア) 適正な会計処理を行った。 イ) 授業料や学校徴収金の管理は適正に行った。 ウ) 破損や老朽化による不調は生徒の安全を第一に速やかに対応した。女子トイレの洋式化は 90%を超

えた。校地の前面塀の塗り替えを行った。校内の木製ベンチの研磨と塗り替えを実施。

③課題と改善策

- ア 教員経験の浅い若手教員が多い職場なので、様々な職務を経験させ、教師としての力量を高めるとともに、今後もOJTの中で人材育成を図っていくことが重要となる。
- イ 部活動指導や教材研究、生徒指導に熱心となり、在校時間が長くなりがちな若手教員が多い。仕事の効率化を意識させるとともに、産業医面接を有効に活用する。
- ウ 部活動指導員を有効に活用し、時間的負担の軽減を図る必要がある。
- エ 今後も体罰・暴言の防止、個人情報の適正な管理等を徹底し、服務事故のない環境づくりが必要である。
- オ 校舎は築39年を迎え、老朽化が目立ってきた。将来は大規模改修を行うとしても、生徒の快適な学習環境の維持のために、短中期的な計画に基づく整美が必要である。

(6) 募集・広報活動

①☆目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携し、組織的な広報活動を全教職員で行い、本校の特色を中学生及びその保護者に広く周知する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 情報発信の強化 ア) ホームページ等のリニューアルと更新頻度の向上 ・行事や集会、部活動の取り組み等生徒の日常の様子をタイムリーに掲載する。 イ) 保護者への情報発信 ・保護者向けのお知らせや案内を掲載する。	ア 情報発信の強化 ア) 2学期にホームページの更新頻度を上げて、生徒の様子が分かる内容とした。 ・体育祭・文化祭・合唱コンクールや修学旅行等の行事を掲載した。Instagramは、今までの部活のみならず、学校公式を立ち上げ、情報発信の幅を広げた。 イ) 生徒の Teams を保護者への連絡にも活用した。
イ 募集対策の強化 ア) 中学校及び学習塾への訪問を教職員で行う。また、生徒には近況の報告をさせるため、出身中学校や学習塾を訪問させる。 イ) 学校説明会や授業公開では中学生や保護者に環境整備を含め丁寧な対応に努める。	イ 募集対策の強化 ア) コロナ禍以降の訪問控えもあり、今年度はHP及びInstagramを活用して生徒の活動を紹介して、学校説明会に招待する方法に変更した。 イ) 校内環境の整備をした。 ・コロナの感染拡大防止対策を確実に取った上で、安心して参加していただく環境を整えた。 ・学校案内をより見やすい内容に改訂した。 【入選応募倍率】 ・推薦入試 R5 2.89 (R4 2.45, R3 3.76, R2 3.70) ・一次応募 R5 1.50 (R4 1.24, R3 1.63, R2 1.46)

③課題と改善策

- ア コロナ禍後の訪問控えもあり、中学校や塾への直接の訪問は実施しなかった。その分、学校の子の様子分かるように、HPを8月から11月にかけて充実させて、Instagram等の保護者や中学生が目にしやすい媒体を活用して、学校説明会に来ていただいた。説明会では生徒の係分担を多くして、様子を見ていただいた。学校案内は分かりやすい形式を継続した。
- イ 地域からの評判が高まる学校となるよう丁寧な生徒指導を今後も継続していく。

(7) 安全・防災・健康教育

①目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
-----	-----

ア 防災訓練 防災教育研究指定校として、避難訓練、宿泊防災訓練を強化し災害時における初期の基本動作を身につけさせる。また、江戸川区消防署及び、地域と連携した防災教育を推進した。	ア 防災訓練の充実 実際の避難経路の確認、人員の確認に重点を置いた。
イ 交通事故防止 セーフティー教室等で自転車の乗り方指導を行うとともに、自転車保険への加入を義務化する。	イ 交通事故の防止 自転車通学者の自転車保険加入率 100%とした。ヘルメット着用を呼びかけた。
ウ 健康管理及び教育相談 ア) スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、当該学年、生活指導部、管理職間で情報を共有する。 イ) 教育相談センターや専門医派遣事業等を活用するとともに、SOS の出し方を様々な機会伝える。 ウ) 体育健康教育推進校として、多様な運動やスポーツとの関わりを通して生徒の体力向上を目指す。	ウ 健康管理及び教育相談 ア) 毎月の保健部会で、教員、スクールカウンセラーで情報交換を行い、生徒に関する情報の共有を図り、早期の問題解決につなげた。 イ) SCによる教育相談に関する校内研修を1回実施した。 ウ) ニュースポーツを授業に採用して研究し、生涯スポーツにおける生徒の可能性を広げられた。

③課題と改善策

- ア 保健部会を通して、相談体制の充実を図り、早期に様々な問題を解決できた。新型コロナウイルスに関する生徒の相談案件もあることから、今後もこの体制を継続していくことが重要である。
- イ 近隣の小学校の登校時刻と本校生徒の登校時間が重なると、危険度が高まるので、乗り方マナーを徹底した。自転車の乗り方指導は今後も繰り返していく必要がある。
- ウ 運動量のあるニュースポーツを授業に取り入れ、生徒に体験させた、普段は運動が得意とは言えない生徒も、既存スポーツの得意な生徒と変わらず楽しめるなど、多くの発見があった。

(8) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	R 5 年度	R 4 年度	R 3 年度
ア 生徒の本校に対する満足度	90%	87%	87%	85%
イ 生徒の授業に対する満足度	90%	88%	85%	87%
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	90%	82%	81%	80%
エ 生徒の行事に対する満足度	90%	89%	87%	81%
オ 生徒の部活動に対する満足度	90%	90%	87%	89%

②生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	R 5 年度	R 4 年度	R 3 年度
ア 4 年制大学進学率	70%	60%	69%	63%
イ 日東駒専の合格者数	35名	34名	29名	19名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	8名	5名	7名	1名

③生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	R 5 年度	R 4 年度	R 3 年度
ア 推薦による入選の応募倍率 (男女平均)	3.8 倍	2.89	2.45	3.76
イ 学力検査による入選の応募倍率 (男女平均)	1.6 倍	1.50	1.24	1.63

④生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	R 5 年度	R 4 年度
ア 1・2 学年家庭学習時間：平日 1 時間以上の割合 (第 2 回スタディサポート結果)	50%	1 年18.3%	1 年14.2%
		2 年13.1%	2 年24.0%
イ 部活動加入率 (5月1日時点)	90%	88%	88%

